

# 会話や日常のやり取りが学びを深める

畝傍高校58回生 白井 卓也

第58回卒、檀原市議会議員の

白井卓也です。まずは、昨今の新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々およびご家族、ご関係者の皆様に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。また医療従事者の皆様をはじめ、日々の感染拡大防止にご尽力されている皆様に深く感謝申し上げます。

この一年間を振り返ってみますと、昨年の一月に日本国内で最初の感染者が確認されて以降、今日に至るまで、新型コロナウイルス感染症は私たちの生活にさまざまな影響を及ぼしました。多くの人が外出を制限し、誰もがこれまでにない不安やストレスにさらされる生活を余儀なくされました。

それは大人だけではなく、子ども達も同様です。学校や保育園、幼稚園は長期休業をし、再開後もこれまでの教育のあり方から大きく変わり、パソコンを利用したオンライン授業を整備し、対面や密となる授業を極力減らす流れになりました。

その中で忘れてはいけないことがあります。それは、最近ほとんど耳にしなくなった「庭訓(ていきん)」という言葉です。昔は、家庭教育のことを庭訓と言って大切にしてきました。この言葉の由来は、孔子とその息子の会話に端を発します。

ある人が、孔子の息子である孔鯉に、「貴方のお父さんは立派な学者ですから、さぞかし家庭教育も素晴らしいことでしょう。どんな教育を授かったのですか」

と尋ねました。それに対して孔鯉は、次のように述べたそうです。

「私は、父から特別な教育は受けたことはありません。ただある時、父が庭で景色を眺めていました。私が偶然その前を通り過ぎると、父が言葉をかけてきました。『孔鯉、詩経を習ったかね』と。私が『まだです』と答えると、父から『詩経を学ばないようでは、一人前とは言えないぞ』と諭されました。私は、その時から詩経の素読を欠かさな

いようになりました。またある時、庭にいる父の前を通り過ぎると、父が『孔鯉、礼記を習ったかね』と申しますので、私は『まだです』と答えました。すると父から『礼記を学ばないようでは、一人前とは言えないぞ』と諭さ

れました。私は、またすぐに礼記の勉強を始めました」

この庭での何気ない孔子の言葉こそが、息子である孔鯉が学びを深めるきっかけとなり、家庭教育のことを「庭訓」と呼ぶようになったきっかけと言われています。

子ども達を導くものは、決して授業だけではありません。寛いでいる時や食事をしている時、散歩をしている時などの他愛もない会話こそが、子ども達のしつけとなり、道案内となるのです。

前述したように学校教育においては、オンラインが注目されている昨今ですが、子ども達が机に向かっていない時の会話や日常生活でのやり取りにこそ高い教育効果があることを忘れず、これからも政治家として、教育者として、檀原市の未来を担う子ども達の成長を支えていきたいと思います。